

～「新しい葬儀スタイルに関する意識調査」(2020年7月実施)～

葬儀にも非接触の兆し。**葬儀のライブ動画配信やドライブスルー、SNS 訃報への抵抗感減少**

冠婚葬祭互助会の(株)くらしの友〔本社：東京都大田区西蒲田 8-2-12、社長：伴 久之〕は、40～70 歳代の男女 400 名を対象に「新しい葬儀スタイルに関する意識調査」を実施し、新しい葬儀スタイルへの認知度や抵抗感を調べました。

前回調査を実施した 2018 年 11 月から抵抗感が下がったサービスと変化のなかったサービスの二分化が見られました。新型コロナウイルスの影響で従来の葬儀を行うことが難しくなる中で、ニューノーマルな葬儀の形への意識にも変化が生まれています。 ※「もし身内に不幸があり、身内以外も参列する葬儀の喪主を務めることになった場合」で「故人の意向はない」という条件のもと調査

調査結果 / サマリー

- ① 「散骨」「樹木葬」が新しい葬儀のスタイルの中で最も認知されていた。また、「葬儀のインターネットライブ動画配信サービス」は 2018 年の調査から最も認知が拡大し、前回の 3 倍以上の結果となった。
- ② 最も抵抗感が下がった「葬儀のインターネットライブ動画配信サービス」は、前回調査比で約 10% 減少した。
- ③ 「SNS 等を活用した訃報・葬儀案内」に対する抵抗感は 55.3% と約半数まで低下。特に 60 代・70 代の抵抗感の減少が著しく、抵抗感のある理由だった「スマートフォンを持っていない」という回答が減少した。
- ④ 2018 年の調査で 95% が抵抗感を示した「ロボット導師による読経サービス」は、今回調査でも 95% が「抵抗あり」と回答。前回調査と同じ結果となり、最も抵抗感が高かった。
- ⑤ 「樹木葬」は前回調査と同様、「取り入れてみたい」と回答した人が 50% を超え、今回調査でも唯一過半数の回答者に受容された新しい葬儀のスタイルだった。

■調査実施概要

調査方法	インターネットによる調査
有効回答数	400 名
データ集計期間	2020 年 7 月 22 日～7 月 27 日
調査対象	1 都 5 県(東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、栃木県、群馬県)在住の男女で 直近 5 年以内に身内以外も参列する参列者 21 名以上の葬儀の喪主(準ずる立場)を経験した 40 歳～70 歳の方
男女比	男性:200 人(50%)、女性:200 人(50%)
年齢	40 代:100 人(25%)、50 代:100 人(25%)、60 代 100 人(25%)、70 代 100 人(25%)

(※)「喪主に準ずる立場」とは、喪主ではないが、喪主と一緒に葬儀社のやりとりなどに参加したり、葬儀費用の収支を確認したりするなど葬儀を把握する立場にある方

全調査結果のデータをご希望の場合は、下記問い合わせ先までご連絡ください**【 ニュースリリースに関するお問い合わせ 】**

株式会社くらしの友 担当:杉本 TEL:03-3735-5357/FAX:03-3735-3595

Mail:h.sugimoto@kurashinotomo.jp